

魚の魅力が大発信！

—天草お魚カルタがもたらしたもの—

天草漁業協同組合天草町支所女性部

橋野君佳

1. 地域の概要



私たちが住む天草市は、熊本県の南西部に位置し、平成18年3月に2市8町が合併して誕生した。

ここでは温暖な気候を生かした農業や、豊かな水産資源を生かした漁業を基幹産業として発展してきた。

また、自然景観、南蛮文化やキリシタンの歴史など、多くの観光資源にも恵まれている。

2. 漁業の概要

私たちが所属している天草漁協は、平成17年4月に5つの漁協が合併し、県内最大の漁協として発足した。

平成27年3月末の時点で、正組合員2,408人、准組合員1,957人、合計4,365人という大所帯の組合である。

私たちは、天草漁協天草町支所に所属しており、主な漁業は、10月から5月まで行われる手繰り網、定置網、刺網、一本釣で、魚類養殖も行われている。

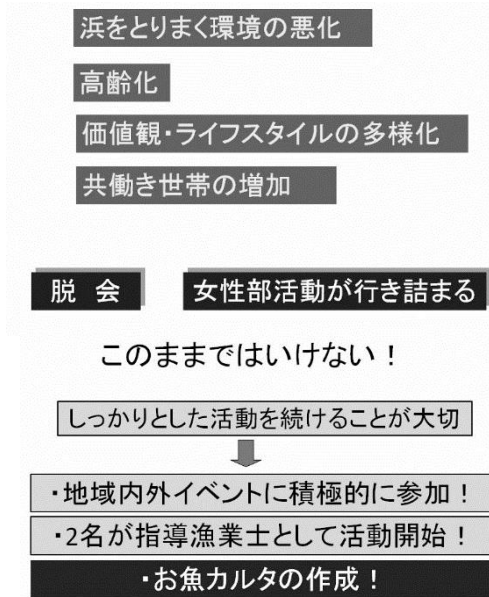


3. 研究グループの組織と運営



天草町支所女性部の部員は20人で、「自分が楽しみながら」をモットーに、★地域イベントにおけるウチワエビを使ったオリジナルの「海鮮鍋」の販売、★親子料理教室の開催、★未利用魚を使った料理レシピの開発、★美しい海を守る運動の推進、★自己研鑽のための各種研修活動へ参加などの活動をしている。

4. 研究・実践活動取組課題選定の動機



浜を取り巻く環境は、資材等の高騰、魚価の低迷、漁獲量の減少などが重なり、厳しい経営状況が続いている。

このような浜の環境に加え、女性部においても高齢化が一段と進んでいること、女性の価値観やライフスタイルが多様化していること、共働き世帯が増え、女性部活動を負担に感じて部員の脱会が相次いだことなどで、停滞ムードに陥り、女性部活動そのもの行き詰まって来た。

しかし、「このままではいけない。浜の活力が失われないように、私たち女性部がしっかりと活動が続けることが大切である」と考えた。

私たちは、地域内外のイベント等に積極

的に参加して、停滞ムードを吹き飛ばそうと思い、平成19年に、新たな取組みを始めた。

1つは、外部の組織と連携しようと、部員の2人が熊本県知事が認定する指導漁業士となり、天草地区漁業士会に加入した。

そして、もう1つが、本日の報告課題となっている「お魚カルタ」の作成である。

食の洋風化は漁村にもあまねく行き渡っており、“お肉大好き”、“加工食品大助かり”の食生活が身の回りで当たり前のように展開されている。

そこで、そんな子供たちに、お魚カルタ遊びを通して、「魚や海を好きになってもらいたい。さらには漁業への関心も高めてもらいたい」と思った。

おさかなカルタについて

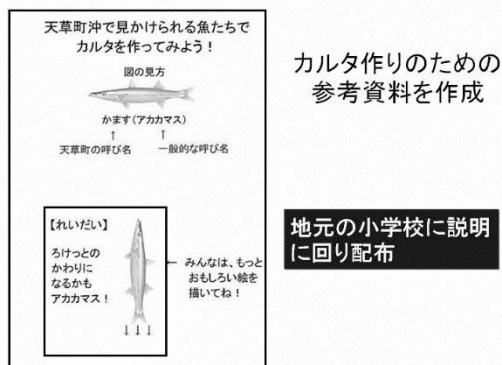
食の洋風化は漁村にもあまねく行き渡る
お肉大好き 加工食品大助りの風潮

おさかなカルタ作りをとおして、

魚や海が大好きになってもらいたい

漁業への関心を高めてもらいたい

5. 研究・実践活動状況及び成果（または効果）



お魚カルタを作るため、早速、女性部では、地元で捕れる魚の一覧やカルタの参考資料を作って、地元の小学校に説明して回った。

しかし、当時は思いが先行していたこともあり、取組を進める中で、次第に、「読み句や絵札の作成など実際にどのように進めたらいいのか」、「カルタの印刷費用をどうやって負担するのか」といった問題が解決できず、お魚カルタ作りは途中で中断した。

第33回全国豊かな海づくり大会



写真)天草会場での放流状況

そんな中、平成25年に、第33回全国豊かな海づくり大会が熊本県で開催されることになった。

海づくり大会は、県内3会場で開催されたが、私も漁協女性部を代表して、天草会場での放流行事や関連イベントの企画等を協議する目的で設置された、天草地域実行委員会に出席する事になった。

天草会場は日程の都合で、天皇皇后両陛下の御臨席を賜る事が叶わず、実

行委員会は当初、重く重い空気が漂っていた。

しかし、だからこそ、出席者全員に天草の行事は、どこにも負けないものにしたいという、共通の思いでつながっていた。

天草地域実行委員会



実行委員会の設置目的

放流行事の開催に必要な企画・運営
イベント //

そこで、私も以前、女性部で取り組んでいたお魚カルタの事を思い出し、「子供たちから大人までみんなが楽しく参加出来る、天草発のお魚カルタを作ってみては、どうだろうか?」と切り出した。

「お魚カルタについて、インターネットで情報を取ってみたら、60年前に作られていて、その復刻板があるだけで、その後、誰も手掛けてこなかった」ということを話し、「この大会をみんなに知ってもらうためには、できるだけたくさん

の世代に参加してもらい、興味を持ってもらう事である。お魚カルタを作るため、絵を描いてもらったり、魚にちなんだ文章を考えてもらったりすれば、インパクトがあるかも?」と提案したところ、実行委員として出席されていた市長や町長から「とてもいい御提案だ!」と、賛同いただき、思いもよらない展開で、女性部の願いは、「第33回全国豊かな海づくり大会開催記念 天草お魚カルタ」として実現する運びとなった。

読み句は全国から、絵札は天草地域の地元小中学生から募集することになり、読み句5,580通、絵札5,225点の応募があった。

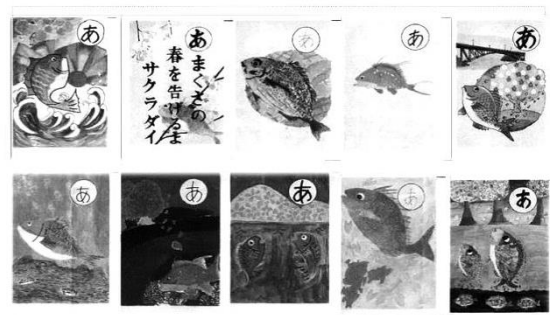
私は、事務局から、「お魚カルタの提案者として、読み句や絵札の選考会にも入って欲しい」と頼まれ、一も二もなくお受けした。

天草おさかなカルタ絵札募集(天草地域の小中学生)

天草おさかなカルタ・絵札募集!
全国豊かな海づくり大会天草地域実行委員会では、10月26・27

- ・読み句(全国から募集)
5,580通の応募
- ・絵札(天草の小中学生から募集)
5,225点の応募

あぶらのる ぶりを食べるの 久しぶり	八平の 高の志の めもたし
あら不思議！ 虹色鮮やか ヒオウギ貝	青色の かがやく海に あじのむれ
あまくさの 海をびよんびよん くるまえび	青い海 うろこを光らせ タイ泳ぐ
あまくさの 伝統料理 タコめしよ	あまくさの 飛んで踊る くるまえび
あおい海 キラキラひかる タチノウオ	あまくさが 世界にほこる くるまえび
あんこうは うみのホテルの 案内人	あまくさと いえばいわしだ 大漁だ
あおさとつ つめたいけれど おいしいね！	あまくさの 海の王さま イセエビだ
あまくさは マグロも泳ぐ 広い海	あまくさの うみのヒーロー てんりゅうあじ
あまくさで いっぱいはねて くるまえび	あまくさの きれいな海に アジ泳ぐ
あまくさの スピードスターは まぐろくん	あまくさの 名産品の くるまえび
天草の 海のちょうろう くるまえび	あまくさの きれいなうみに ひおうぎがい
あまくさの 海でさいさき いいいさき	あかねから 銀鱈はねる イワシ網
あまくさの みんなの癒し イルカさん	あさぼらけ キラリと光る タチノウオ
あまくさの てんかっぱいぶん くるまえび	あらうみで 一本づりの クロマグロ
秋なすと 嫁に喰わすな 秋カマス	あまくさを イルカ大使が PRする
オノオノ	あまくさの おどろくする くるまえび
読み句のうち、頭文字が「あ」の一例	あまくさに むかえてくれる いるかたち
藍の海 ヒツクワの群れは さくら鯛	



「あまくさの春を告げるよサクラダイ」の絵札の一例

膨大な読み句と絵札は、事務局が整理し、何度も選考委員会が開催され、最終的に 46 点の読み句と絵札が選び抜かれた。

上質の紙を使って、いいデザインに仕上がった。この確かな重さ、ここには私の思い出も乗っかかっている。

当然、実行委員の皆さんも大変喜んで下さった。女性部だけでは、とてもここまで立派なものは作れなかったと思う。



後日、このカルタは、皇室に献上されるという名誉にあずかった。
ところで、団体の代表をしていると、充て職で、海づくり大会実行委員会のような、各種審議会や委員会へ、参加をする機会がある。今回私は、会の代表であることを念頭に置き、しっかり参画することの大切さを学ばせていただいた。

カルタ大会の様子 (じゃがじゃが祭)



海づくり大会終了後、市役所から「イベント用の特大の絵札を作成したので、お魚カルタ大会を開催しないか」という誘いがあり、これを機会に女性部の有志 4 人でカルタ部会を立ち上げた。

カルタ大会は、天草市の職員の方々と協力しながら実施する。

参加者は人数や年齢に応じて班分けし、あらかじめ横一直線に並んでもらい、女性部員が読み句を 2 回読んだあと、笛の音を合図に、絵札を取りにってもらおう。

実際は以下の通り実施する。

「それでは読み上げます」

「天草の春を告げるよ桜鯛」、「天草の春を告げるよ桜鯛」

「いいですか？ 「あ」ですよ！」（笛の音）「ビー」



屋外でのこのカルタ大会は、子供たちが走り回るので、見ていてとても楽しいものである。

また、絵札をたくさん獲得した子供には旬の魚をプレゼントするので、今晚のおかず狙いの、親の声援もヒートアップする。

女性部員は、ハンドマイクを片手に、絵札を取ってきた子供に「どこから来たの?」、「この魚食べた事ある?」などとインタビューしたり、親御さんを対象に、絵札の魚の美味しい料理方法を説明するなど大忙しである。

でもそれは、仲間と一緒に充実した活動であり、楽しい活動といえる。



絵札を取ってきた子供への
インタビューの様子



6. 波及効果

1 つ目は、漁村にも魚が苦手な子供たちがいるが、カルタに触れることはできるので、遊びの中で魚に親しみ、情報を得る事ができた。

2 つ目は、お魚カルタ大会では、一番多く絵札を取った子供に優勝賞品として、旬の魚とすり身の詰め合わせを、差し上げている。

商品をもたらした子供の親御さんからは、料理の仕方を聞かれるので、今夜食べるのか、明日以降食べるのかを伺い、おいしい食べ方を説明している。

また、これには後日談があり、子供たちは、賞品として自分が獲得した魚を家族に自慢しながら、旺盛な食欲を見せる。それを見て魚が苦手な兄弟も、そんなにおいしいならと食べ始めるようになったとの事である。

私たちは、これを「連れ食い」とか「のぼせ食い」と呼んでおり、親御さんからは、とても喜ばれた。

3つ目は、カルタ大会に参加した事をきっかけに、地元の漁師にその子供が挨拶するようになった事である。

おそらく、それまで、子供の目には単なる風景に過ぎなかった漁村が、カルタ大会に参加することで、身近で特別な場所に思えるようになったからと思われた。

また、そんな話をしてくる親御さんは、私には「浜の応援団」に思えた。

4つ目は、大型カルタは天草市役所が貸し出しており、私どもが関わっていないところでも、学校関係や地域イベントで、お魚カルタ大会が開催されるようになった事である。

5つ目に、このような反応や効果に部員それぞれが接することで、自分たちの取り組みに手応えを感じ、その結果、女性部活動に活気が生まれた。

①魚が苦手な子も、遊びの中で魚に親しめた

②「連れ食い」による魚食普及

③浜の応援団の成立

④地元祭り以外に、学校関係に裾野の拡大



⑤手応えがあり、女性部に活気が生まれた

7. 今後の課題や計画と問題点

お魚カルタの存在を、多くの人に知ってもらい、カルタ遊びをとおし、魚に親しんでもらう取り組みを続けていきたい。



あ あまくさの 春を告げるよ サクラダイ
 い イセエビも ハイヤに合わせ 跳ね踊る
 う 牛深の 浜に大漁 イワシ船
 え 笑み浮かぶ 茶摘みのあとの 初ガツオ
 お お目々どこ 左にあるなら おれヒラメ

は 箸つけたい 夏のイッサキ まっさきに
 ひ 一目ぼれ 真っ赤なドレス ウチワエビ
 ふ 冬の幸 天草灘の アラの鍋
 へ 弁当は アジの開きと にぎりめし
 ほ 細い顔 すてきよスマート カマス君

か 海藻が 豊富な天草 ウニ育つ
 き きらきらと 天草灘にサバ光る
 く 口の中 海が広がる オイスター
 け 結婚を 祝うコノシロ 姿寿司
 こ 黄金色 輝くハモが 夏を呼ぶ

ま まぼろしの 味はカイワリ 海の底
 み みだくさん 天草海(うみ)行く ワタリガニ
 む 群れなして キビナゴ泳ぐ 里の海
 め メジナ釣る 島の波止場は 波静か
 も もう一杯 アンコウ鍋を アンコール

さ 最高の アワビが育つ 宝島
 し 旬の魚 サワラが告げる 春便り
 す 素潜りで 採れるミネラル トサカノリ
 せ 世界へと 夢を背負って 天草マグロ
 そ 早春に 母を思いし アオサ汁

や 焼き切りで ヤノイオ味わう 里帰り
 ゆ 夕焼けを 身に染め上げて 紅カサゴ
 よ 羊角の 教会ながめ イカを曳(ひく)

た タコの味 ひっぱりだこで お墨つき
 ち 知恵くらべ 餌取り名人 カワハギと
 つ 通詞島 早瀬の瀬戸に イルカ群れ
 て 天日干し 庭いっぱい ヒジキかな
 と 獲れたての キッコリ前に えびす顔

ら ラッパ吹く フグの口笛 いい顔だ
 り 漁師さん おいしい顔で ハンタ食う
 る ルックスは 怖いがオコゼは 高級魚
 れ 苓州の 海で舞ってる ヒオウギガイ
 ろ ロザリオの 鐘の音聞いて イシダイ釣る

な 夏の海 マンビキ光る エメラルド
 に 日本一 熊本県魚 クルマエビ
 め ヌルヌルの ウツボでつやつや コラーゲン
 ね ネバネバの 多いモチウオ 鮮度良し
 の のさりもん ブランド養殖 天草ブリ

わ ワカメさん フラフラゆらゆら フラダンス
 を 虹下を くぐって来たか イトヨリダイ
 ん 銀の背が きらりタチウオ 立ち泳ぎ



製作著作 第33回全国豊かな海づくり大会天草地域実行委員会

天草おさかなカルタの読み句・絵札・読み札